



創造

今日も二つの小さな花瓶が校長室の中央で確かな位置を占めています。応接用テーブルの上に置かれた真紅の肥後つばきや水仙、撫子、ガーベラなど色鮮やかな花が目と和ませてくれます。お客様との会話も花々の話題から始まり、穏やかな雰囲気になります。

日々、花一輪に心配りのできる人の大切さを身にしみ感じていきます。同時に、ひとときでもあります。

昨日は、人権教育の研究発表会を本校で開催しました。コロナ禍にあることを受け、佐敷中学校区の先生方を中心に参加者数を制限し、三密を防ぐなど万全な対策を講じたうえで実施しました。本校の人権課題は、①他の人の役に立っているという「自己有用感の育成」 ②他者とのより良い「人間関係づくり」の二点でした。

今年度の共育ビジョンを「自分のため、人のために考動する」とした理由もここにありました。これまでの約十カ月、「研究の成果は子どもたちの姿にある」との共通認識のもと、全職員で研究に取り組んできました。



授業を公開したのは、二年一組と六年二組の二学級。それぞれ『分け隔てのない心』『分かち合う喜び』という主題について考え話し合いました。互いの意見を交わす中で子どもたちの心が葛藤する場面があり、実生活での自らの言動を深く見つめ直す機会となった一時間でした。

ご協力に感謝! 「朝食(味噌汁)作るうデー」



①食に対する関心を高める。②料理作りに積極的に参加しようとする意欲を持たせる。③健康的な食生活を送ろうとする態度を養うことを目的に実施した『朝食(味噌汁)作るうデー』。冬休み中、多くのご家庭で取り組んでくださいました。今号では、その感想を子どもと家族に分けて紹介します。

【児童の声】

【2年生】
みそしるに入れた大こんの切り方を「いちよう切り」だとはじめて知りました。本当はいちようのはっぱの形みたいだったのがウキウキしました。そのほかの切り方もおしえてもらいたくなりました。みんながニコニコして食べてくれて心がおどりました。

【ご家族の声】

前日から何を作るのか、使う具材や切り方など意欲的に考えていました。栄養バランスを見直す機会となり、また、朝ご飯の大切さや、それに込める想いを伝える貴重な時間となりました。

【4年生】

畑の大根と人参とみそだけで作りました。ほんだしを入れなくても野菜のあまみでおいしくなるんだなあと思います。また、作りたいです。

日頃から一緒に台所に立ってお手伝いをしてくれるので、朝の時間でもスムーズに調理することができました。祖父母と一緒に植えた大根がとても甘く、出汁を入れなくても甘くておいしい味噌汁ができた本人もびっくりしていました。皆から美味しと言われ満足気でした。

【5年生】

バランスを考えた食事を作ることは大変だと思いました。自分が作った料理はとても美味しかったです。

卵を割ったり、材料を切ったり、調味料を混ぜたり、終始楽しんで作ってくれました。味も美味しく盛り付けも上手にできました。これを機会に、時間があるときはまた一緒に作りたいです。

各ご家庭の温かさが伝わってきました。ご協力ありがとうございました。



各担当者の思い



学校経営に欠かせない重要な役割を担っている業務として、庶務・財務関係業務、保健指導・保健管理業務、食に関する指導・給食管理業務があります。



佐敷小の子どもは、私が怪我をしたときに心配してくれたり、給食の片づけを一緒にしているときにきちんと「ありがとうございました」と感謝の言葉が返ってきたりなど、とても素敵な子どもたちです。佐敷っ子の笑顔に私も癒されています。県独自の緊急事態宣言が発令され、本校では、手洗い、検温、加湿器の設置など、職員みんなで意見を出し合っ

て感染防止対策を徹底しています。コロナ対策に限らず、子どもたちが安心安全に学べる教育環境を整備することが私の一番の目標です。そのために、職員・教育委員会等と協働し業務を行っています。いろいろな人たちに支えられて仕事ができていることをありがたく思います。このコロナ禍を無事に乗り越えられるように感染防止対策に努め、夢実現列車「さしき265号」の終着駅である笑顔あふれる学校になるよう私も笑顔で頑張ります。 事務担当 宇田津 典子

生き生きとした表情で学習したり、はじけるような笑顔で友達と遊んでいたりする子どもたちの姿に接すると、命の輝きを感じます。子どもたちの伸びようとする力をどう育てていくか、困難にぶつかり乗り越えようと悩んでいるときに、どう寄り添い、その土台となる健康教育をどう進めていくべきか、悩んだり迷ったりすることも多いのですが、私を答えて導いてくれるのは、いつも子どもたちの姿です。また、元氣アップ週間の感想欄に、「おうちの人と会話をしたり、一緒に遊んだり、料理を作ったりして楽しかった」など、何気ない日常の時間の共有に、幸せや愛情を感じている子どもたちの純粹さに触れると、「やっぱり、子どもたちが満たされる最高のプレゼントはこれだよな」と何とも言えない温かい感情が沸き上がります。これからも、子どもたちの健やかな成長を願い、伸びる力を信じて、輝く命を共に育み、見守っていきましょう。無条件の愛情表現で。 保健担当 小崎 富美



給食は「お昼ごはん」という意味合いだけでなく、学校給食法により健康教育の一環として実施されています。献立は、学校給食摂取基準に基づき多様な食品の組み合わせによって栄養バランスが摂れるよう工夫しています。栄養面だけでなく、旬の食材や地場産物を多く使用し、食文化の伝承、食品を選択する能力の育成などを目的に地域の郷土料理や行事食、セレクトやリクエスト給食などを取り入れています。また、食中毒等の事故が起きないように学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理を徹底し、調理員さんとともに安心安全なおいしい給食作り

に努めています。給食センターに残食がたくさん返ってきたときはがっかりしますが、子どもたちがおいしそうに笑顔で食べている姿や「今日の給食おいしかったです」という声を聞くと、給食を作る仕事をしてよかったなあと感じます。食べることの楽しさ、大切さを伝え、子どもたちの健やかな心と体の成長を見守りたいと思います。給食担当 本井 由美子

